

国際的に著名な非営利団体 CDP が実施した水資源管理に関する調査において 最高評価の「ウォーターAリスト」に選定

2017年10月24日

富士フイルムホールディングス株式会社(社長:助野健児)は、国際的に著名な非営利団体 CDP^{※1} が実施している水資源管理に関する調査において、最高評価の「ウォーターAリスト」に初めて選定されました。「ウォーターAリスト」に選定されたのは、全世界で73社、日本で12社となります。本調査の結果をESG(環境、社会、統治)投資の一環として、機関投資家が活用する動きが出始めています。



当社は創業当初から、「環境配慮・環境保全是、企業の根幹を成す」という考え方にに基づき、効率的な水使用や自社工場内での廃水浄化など、環境に配慮した水資源保全への対応に取り組んできました。現在、当社は新たに製品開発におけるウォーターフットプリント手法^{※2}の導入など、リスク管理のさらなる強化に加え、事業機会の創出に積極的に取り組んでおり、それらが評価されたものと捉えています。具体的な取り組みの内容は以下の通りです。

- ・ 水リスクを評価する独自指標として、「将来の水ストレス^{※3}」と「水投入量を踏まえた事業影響度」の2つを定め、それらを用いたマトリックス評価表「水リスクマップ」を作成し、水リスク管理の強化に活用
- ・ 製品開発においてウォーターフットプリント手法を導入することにより、当社での事業活動のみならず、取引先からの原材料調達も含めた製品ライフサイクル全体での水使用量を評価し、リスク管理をさらに強化。また、水リスクに関心が高い顧客に対して積極的に情報開示することで、事業機会を創出
- ・ 水処理に活用される高機能なフィルトレーション材料などの提供により、国際的な水資源問題の解決に貢献

当社は今年、2030年をターゲットとした新CSR計画「サステナブルバリュープラン(Sustainable Value Plan)2030」(「SVP2030」)を策定しました。「SVP2030」は、国連が推進する持続可能な開発目標(SDGs)や、パリ協定などを踏まえ、「事業を通じた社会課題の解決」と「事業プロセスにおける環境・社会への配慮」の両面から取り組む計画です。

現在、当社は水資源管理において、「富士フイルムグループ全体の水投入量を2013年度比30%削減し、2030年度に3,500万トン以下に抑制」、「水処理に活用される高機能材料やサービスなどの提供により、2030年度に社会で年間3,500万トンの水処理に貢献し、事業活動による環境負荷と同等レベル以上の環境貢献を目指す」というチャレンジングな定量目標を掲げ、「SVP2030」を推進しています。

富士フイルムグループは、これからも社会からの関心の高い水資源保全への対応に取り組むとともに、CDPなどを通じて情報開示を積極的に推進し、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

※1 企業が気候変動、水、森林の分野における環境影響を情報開示し管理することを、資産総額100兆米ドルに及ぶ機関投資家と協働で促している国際的な非営利団体。

※2 原材料調達から、生産、輸送、使用、リサイクルまでの製品ライフサイクル全体の水使用量を算出し、水資源への環境負荷を定量化並びに視覚化する手法。

※3 水需給に関する逼迫の程度を表す指標。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<報道関係> 経営企画部コーポレートコミュニケーション室 TEL:03-6271-2000

<お客さま> 経営企画部CSRグループ TEL:03-6271-2065

ホームページ: <http://www.fujifilmholdings.com/>